

【総合型選抜 学習成果重視】

受験番号	1	※記入しないこと
------	---	----------

志望学部 学科 (専攻・プログラム)	人間科学部 学部	子ども教育 学科	専攻 プログラム
フリガナ	〇〇 〇〇〇	高等学校名	九州〇〇高等学校
氏名	〇〇 〇〇		
生年月日	平成20年9月18日		

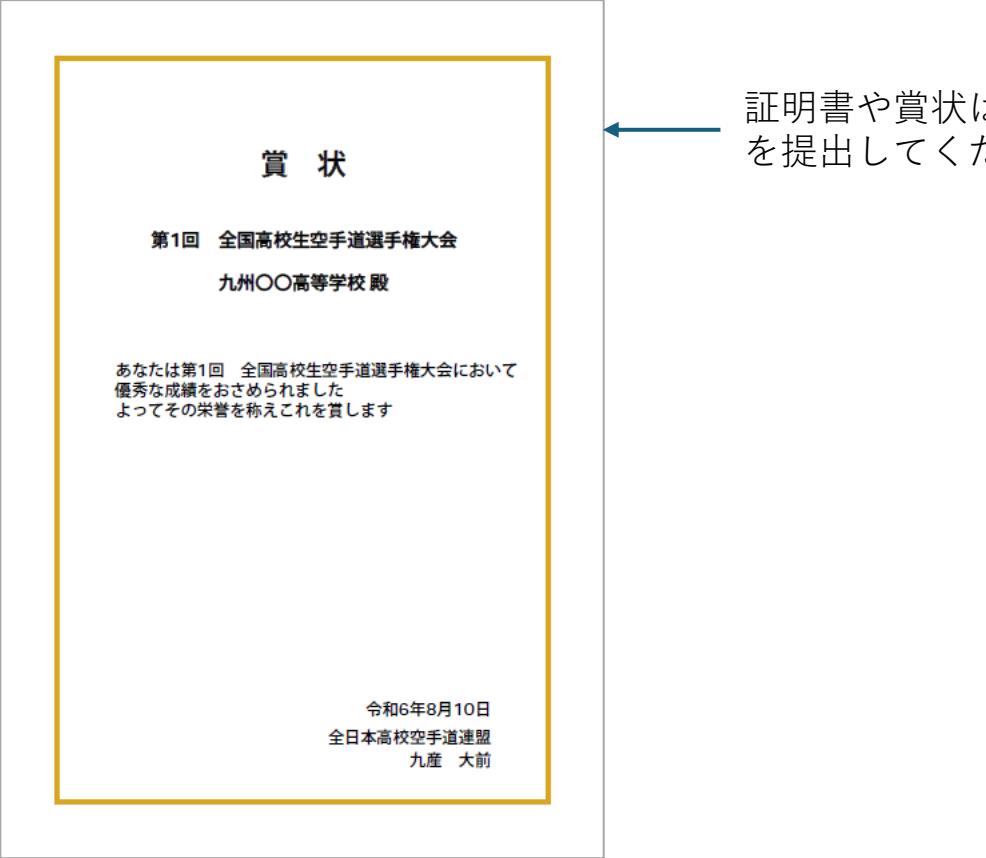
①学習・活動区分	☐ 正課内 ☒ 正課外
②学 習 ・ 活 動 実 績 種 別	☐ 高校での学習 ☐ 探究学習 ☐ 資格・検定 ☐ 生徒会活動 ☐ 高校以外での学習 ☐ 地域貢献活動 ☐ 特技・趣味 ☒ その他（ 部活動 空手部 ）
③学習・活動期間	例（〇年〇月～〇月） 2024年 4 月～2027年 3 月
④学習・活動に おける役割等	☐ 個人 ☒ チームまたは複数人（ご自身の役割を下記に記入） 役割：空手道部マネージャー

⑤学習・活動実績（どのような学習・活動を行い、どのような成果・実績があったかを記入してください。）
⑥学習・活動を通じた成長（学習・活動によって、自分自身がどのように成長をしたかを記入してください。）

⑤空手道部のマネージャーとして、「全国制覇」というチームの目標を支えるため、選手が集中して練習や試合に取組むような環境づくりに努めました。
まず、毎日の練習後に選手一人ひとりの練習内容や体調・怪我の有無を記録し、体調管理表を作成することで、体調の変化を早期に把握できるようにしました。これにより、指導者が選手の状態を見ながら練習メニューを調整することが可能となり、無理のない強化につながりました。
また、全国大会出場校の戦術や傾向を研究し、映像をもとに選手の特徴に合った対策資料を作成するなど、試合準備にも貢献しました。
また、遠征や大会時には、移動や宿泊、食事のスケジュールを事前に細かく作成し、必要な道具や備品をチェックリストで管理することで、当日の混乱を防ぎました。
さらに、日頃から選手とのコミュニケーションを大切にし、悩みや不安を気軽に話せる雰囲気づくりを意識しました。小さな変化にも気づけるよう声がけを欠かさず、選手が精神的にも安心して練習に臨めるよう努めました。こうした取り組みを通じて、選手が本番に集中できる体制を整えることができ、結果として県大会で優勝、全国大会では3位という結果を出すことができました。

⑥この活動を通じて、私は「観察力」と「責任感」、そして「チームの一員としての在り方」を大きく成長させることができました。
マネージャーとして、選手を支える裏方の仕事には目立たない部分も多くありますが、誰かのために自分ができることを考え、実行し続ける中で、自然と先回りして行動する習慣が身につきました。また、体調管理やスケジュールの作成、試合準備など、ひとつでもミスがあれば選手に負担をかけてしまうという責任の重さも感じ、自分の行動に対する意識が大きく変わりました。
さらに、日々のコミュニケーションを通して、相手の立場に立って物事を考える力も養われました。選手との信頼関係を築きながら支えることで、「支えることの大切さ」と「仲間と目標を共有する喜び」を学びました。この経験は、どんな環境でも周囲をよく見て行動し、チームに貢献できる力として、今後にも必ず活かしていけると感じています。
以上の経験を通して、日本や世界で活躍する選手のサポートができる人材になりたいと強く感じ、スポーツに関する栄養学や心理学、マネジメントについて学びたいと思うようになりました。

※学習・活動実績を証明する資料を、本紙を表紙として左上をホッチキスで止めて提出すること。（証明する資料については書式自由） 注：証明する資料がない場合は実績としてみなさないことがあります。
※⑤⑥について紙面が足りない場合は、A4用紙（書式自由）に記載し、本紙を表紙として左上をホッチキスで止めて提出すること。



R7体調管理表（4/6-4/12）

※毎週金曜日体重測定
※身体状況は何かあればすぐに報告すること

記入日：4/11（金）

学年	名前	性別	ベスト体重	階級	現在体重	身体状況	備考
3	田中	男	60	中量級	58.8	○	
	原田	男	64	中量級	65.5	腰が痛い	部活後にマッサージをする
	吉田	男	61	中量級	60.2	○	
	佐藤	男	70	重量級	69.0	○	
	鈴木	男	50	軽量級	51.0	○	
	渡辺	女	48		50.2	○	
	山本（花子）	女	55	中量級	54.5	肩が痛い	4/12に病院に行く
2	加藤	男	63	中量級	63.2	○	
	高橋	男	56		56.9	○	
	伊藤	女	54	軽量級	54.8	○	
	小林	女	59	中量級	60.2	○	
1	佐々木	男	61	中量級	61.2	○	
	山田	男	67	重量級	66.6	右手小指骨折	全治1か月半（5月下旬から練習復帰） 下半身強化メニューを作る
	山本（太郎）	男	66	重量級	67.0	○	
	中村	女	60	重量級	58.5	○	体重を増やしたいため、部活後に食料がほしい
	松本	女	58		58.3	○	

★お知らせ欄★

・練習内容改善のため、①強化したいこと ②そのための練習メニューをみんなに提案してもらいたいです！
以下のURLからFormsにログインして回答してください！！（複数回答可）
URL：●●●●●

6月のインターハイ予選に向けて準備していきましょう！！

この資料が〇〇〇〇の活動の根拠資料であることを証明する

〇〇高等学校 顧問教員 〇〇〇〇

印

本人を特定できない資料の場合は、高校の教諭に署名をもらうなどしてください。

志望学部 学科 (専攻・プログラム)	理工 学部	スマートコミュニケーション工学科	専攻 プログラム
フリガナ	〇〇 〇〇〇	高等学校名	九州〇〇高等学校
氏名	〇〇 〇〇		
生年月日	平成20年4月2日		

①学習・活動区分	☐ 正課内 ☒ 正課外
② 学 習 ・ 活 動 実 績 種 別	☐ 高校での学習 ☐ 探究学習 ☐ 資格・検定 ☐ 生徒会活動 ☐ 高校以外での学習 ☐ 地域貢献活動 ☐ 特技・趣味 ☒ その他（ 部活動：e-スポーツ同好会 ）
③学習・活動期間	例（〇年〇月～〇月） 2024年4月～2027年3月
④学習・活動に おける役割等	☐ 個人 ☒ チームまたは複数人（ご自身の役割を下記に記入） 役割：eスポーツ同好会 副キャプテン

⑤学習・活動実績（どのような学習・活動を行い、どのような成果・実績があったかを記入してください。）
⑥学習・活動を通した成長（学習・活動によって、自分自身がどのように成長をしたかを記入してください。）

私はeスポーツ同好会の副キャプテンとして、週3回の練習を年間で約150時間行い、チームの運営を担ってきました。指導者がいない中でも、LINEグループを使って役割分担や課題の共有を行い、練習の効率化に取り組みました。練習を重ねるうちに、通信の遅延が試合に影響していることに気づき、複数の教室で通信速度を比較・記録しました。

その結果、最も安定していた理科室への移動を提案・実行し、プレイ環境を改善することができました。こうした工夫の積み重ねにより、2024年度の福岡県大会で準優勝、さらに九州ブロックでもベスト8に入ることができました。

また、文化祭ではeスポーツ体験コーナーを企画し、年齢や経験の異なる来場者が楽しめるように、簡単なルール説明やゲームのコツ紹介などを行いました。試合結果はタブレットでリアルタイムに表示し、その場で観客と選手が一緒に盛り上げられる空間をつくりました。「初めてゲームをしたけど楽しかった」と話す子どもの笑顔がとても印象に残っています。

これらの活動を通して、私は「協力して目標を達成することの大切さ」と「課題を見つけて自分で考え、改善していく力」の両方を学ぶことができました。通信環境の問題に対してデータを集め、自ら行動に移せたことは、自分にとって大きな自信になりました。

さらに、文化祭では初めて年齢の異なる人にゲームの楽しさを伝える経験をし、伝え方やわかりやすさを工夫する難しさも実感しました。こうした経験を通じて、ITや通信の仕組みにますます関心を持ち、人と人をつなぐ技術やサービスについて学びたいという思いが強くなりました。

※学習・活動実績を証明する資料を、本紙を表紙として左上をホッチキスで止めて提出すること。（証明する資料については書式自由） 注：証明する資料がない場合は実績としてみなさないことがあります。
※⑤⑥について紙面が足りない場合は、A4用紙（書式自由）に記載し、本紙を表紙として左上をホッチキスで止めて提出すること。

eスポーツ同好会 プレイ環境改善に関する提案書

提出日： 2026 年 6 月 10 日
提出者： 〇〇高校 eスポーツ同好会 副キャプテン 〇〇 〇〇
宛先： 顧問教員 〇〇先生

【提案内容】
プレイ中の通信ラグ（遅延）を改善するため、現在使用している普通教室から理科室への練習場所の移動を提案します。

【背景】
最近の練習中に、ゲームの操作と画面の反応にズレが発生することがあり、プレイの正確さや集中力に悪影響が出ています。これが大会でのパフォーマンスにも影響する可能性があります。

【調査結果】
放課後に複数の教室で Ping 値（通信の応答速度）を測定したところ、以下のような結果となりました：

教室	平均 Ping 値 (ms)	コメント
普通教室 A	45ms	時々ラグを感じる
普通教室 B	60ms	ラグが顕著に発生
理科室	22ms	非常に安定していた

【提案内容の詳細】

- 理科室は放課後に空いていることが多く、電波の安定性が高い
- LAN ケーブルも利用可能で、通信環境が優れている
- 部員全員で PC やモニターを運ぶことに同意しており、準備も自分たちで行えます

【期待される効果】

- 通信の安定によってプレイ精度が向上
- 試合中のストレスが減り、練習の質が上がる
- 県大会・九州大会に向けて万全の準備ができる

【お願い事項】
上記の理由から、理科室の使用についてご検討いただき、ご許可をお願い申し上げます。

この資料が〇〇〇〇の活動の根拠資料であることを証明する
〇〇高等学校 顧問教員 〇〇〇〇 印



本人を特定できない資料の場合は、高校の教諭に署名をもらうなどしてください。

	フリカナ	○○○ ○○○
	氏 名	○○ ○○
4月2日	高等学校名	○○高等学校

[illegible]

⑤私は小学校の頃から日本史に興味を持ち、戦国武将や幕末の志士たちの伝記を読むのが好きだった。中学校に入ると、社会科で本格的に日本史を学び始めた。授業では、出来事背景や因果関係を理解することの大切さを学んだ。なぜ鎌倉幕府が鎌倉に置かれたのか、戦国時代がどうして起こったのか、そういった「なぜ」を考えながら学習を進めた。高校一年生では歴史総合で日本と世界の歴史のつながりを学び、高校二年生からは日本史探究で史料を読み解きながらより深く研究した。また、積極的に九州各地の史跡を巡る活動を行った。佐賀の吉野ヶ里遺跡では弥生時代の暮らしを体感し、太宰府では古代の政治の中心地としての重要性を学んだ。熊本城では戦国時代から江戸時代の城郭建築に触れ、長崎では出島を訪れて鎖国政策について理解を深めた。こうした体験を通じて、教科書の知識が立体的につながっていった。これらの努力の結果、中学校から高校まで社会科の評定は常に5を維持し、高校の模擬試験では日本史の偏差値が65を超えるまでになった。

⑥ 6年間の学習と活動を通じて、私は三つの面で大きく成長できた。第一に、物事を多角的に捉える力が身についた。歴史上の出来事には必ず複数の視点があることを学び、一面的な見方では真実は見えないことを理解した。第二に、探究心と主体的に学ぶ姿勢が育まれた。史跡を訪れるたびに新たな疑問が生まれ、それを自分で調べる習慣が身についた。疑問をそのままにせず、図書館やインターネットで調べ、さらに理解を深めていく楽しさを知った。第三に、歴史と現代社会のつながりを意識するようになった。過去の人々の営みが今の社会を形作っていることを実感し、未来を考える視野が広がった。将来は、この経験を活かして観光学を学び、日本の歴史や文化の魅力を国内外の人々に伝え、地域活性化に貢献したい。

高校3年間の成績表

3年1組〇〇 〇〇

	国語表現	古典探究	日本史探究	公共	英語 コミュニケーションⅢ	数学Ⅱ	数学B	情報Ⅱ
第1学期	4	3	5	4	3	3	3	4
第2学期	4	4	5	4	3	3	3	5
第3学期	5	3	5	4	4	3	3	4

第3学期	5	3	5	4	4	3	3	4
------	---	---	---	---	---	---	---	---

第5子期	5	5	5	4	4	5	5	4
------	---	---	---	---	---	---	---	---

模試の結果表

教科・科目			得点 / 配点	偏差値	順位 / 受験者数
英語			120 / 200	50.2	263429 / 526857
リスニング			28 / 50	54.3	221594 / 526857
数学①		数学ⅠA	64 / 100	52.2	177425 / 354850
数学②		数学ⅡB	52 / 100	50.7	105013 / 210025
国語			135 / 200	49.9	248318 / 496635
理科	第1	生物	46 / 100	51.1	34127 / 34127
地歴・公民	第1	日本史探究	96 / 100	65.8	40 / 80124
	第2	公民	76 / 100	57.1	20611 / 41223



本人を特定できない資料の場合は、高校の教諭に署名をもらうなどしてください。